

# あおもり

|    |                               |      |
|----|-------------------------------|------|
| 特集 | 平成25年度当初予算                    | P2   |
|    | 各地域県民局の取組                     | P3   |
|    | 自慢したい!とっておきの“あおもり”            | P4~5 |
|    | 地域みんなで安全・安心な社会づくりに取り組もう!      | P6   |
|    | 青森の空の便がもっと便利になります!・春の山菜採り遭難防止 | P7   |
|    | インフォメーション                     | P8   |



## 申吾の ほっとラム

青森県知事 三村 申吾

### 「入(ラムダ)プロジェクト」始動

いよいよ春です。桜満開、春全開となる、あと数週間が本場に待ち遠しいです。

「押し叩つて海を桜の「あわたる」 川崎展宏

青森まで北上した桜前線(生命力満ちあふれる春)が、押し合いハし合い津軽海峡を勢いよく渡ってゆくとの句です。

同じく、いよいよ3年後(平成27年度末)、新幹線も海峡を渡るスケジュールが見えてきました。この開業による新函館(仮称)と八戸、弘前が70分で結ばれるという時間距離の短縮は衝撃的です。

「しよっぱい河(津軽海峡)を挟んで縄文の、いやさらに太古の時代から深い絆で結ばれ、交流を続けてきた私たちが、新幹線によって約180万人を擁する大交流圏域「津軽海峡交流圏」が出来上がるようになります。

そして、私たち青森県にとっては平成14年の「八戸」、平成22年の「新青森」に続き、三度目となる「奥津軽(仮称)」開業というチャンスが巡ってくるにもなります。

様々な開業準備をじっくりと整え、1573もの新たな観光コンテンツを仕込み、満を持しての平成22年暮れの東北新幹線全線開業でしたが、翌年3月の大震災の発生により、それらを活かすしきれなかったという忸怩たる思いがあります。

そこで今や、未来に向かって三度目のチャンスを活かそうと「入(ラムダ)プロジェクト」またの名を「大入り大作戦」の準備が、関係各位・各機関において着々と進行中です。

函館―青森―八戸、函館―青森―弘前の鉄道路線を描くと、ギリシヤ文字の「入(ラムダ)」、また、漢字の「入」の形になります。これに津軽半島と下北半島を結んだ線を組み合わせると、漢字の「大」にも見立てられます。そこで、この道南―青森県の「津軽海峡交流圏」に関わる様々な事業を総合総括して「入(ラムダ)プロジェクト」大入り大作戦」と呼んでいます。

この交流圏の形成は、圏域内での滞在時間を拡大させ、観光をはじめとした本県産業の起爆剤となるでしょう。

今度こそ、お客様で大入り満員の「サクランカイニサク」大合格プロジェクトに仕立て上げたいと決意しています。